

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(128)、(161)」

2. 日時：令和4年10月3日（月）16時00分～18時20分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、西来主任技術研究調査官、馬場係員、松末技術参与、杉野統括技術研究調査官、道口主任技術研究調査官、山下技術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長 他9名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

《本年9月21日に受取済み》

- ・浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（補足説明資料）
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（コメント回答）
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について

- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	はい。それでは浜岡原子力発電所のプレートが地震の津波評価。
0:00:07	こちらのヒアリングを始めたいと思います。前回のヒアリング、それで一部こちらの方からも時間がなくて質問し切れなかった部分がありますので主にはそちらについて確認をスピーチ確認をさせていただくと。
0:00:22	いうヒアリングになります。今日前回のヒアリングから若干ですね資料の方アップデートが入ってますので、このプレート間地震の津波評価のアップデートの部分、
0:00:34	それと、前回でほぼほぼ、ご説明はいただけてますけども津波堆積物ですね、こちらの方にも若干の修正があるということで、
0:00:45	その修正部分を、中部電力の方から説明をもらって、そのあとですね前回の質疑の続きをしたいと思います。説明の方よろしく願いいたします。
0:00:57	はい。中部電力天野でございます。ありがとうございます。本日、今、鈴木さんからご説明ありました通り、前回9月7日にヒアリングいただきまして事実確認いただきました。で、
0:01:10	我々事業者の方でより説明性向上の観点で一部資料の方アップデートさせていただいてますので、そちらの点冒頭に説明させていただきます。10分程度になります。それを、
0:01:23	ご説明させていただいた後、利率確認の方よろしく願いいたします。
0:01:31	勤務電力の加藤です。
0:01:33	浜岡原子力発電所基準津波の策定のうち、プレート間地震の津波評価につきましては、前回9月7日のヒアリングを受けまして修正点はほとんどありませんでしたが、
0:01:43	1ヶ月程度時間が経過しておりますので、
0:01:46	審査資料の説明性向上ということで、記載の充実化と、補足的な解析の追加等を行っております。本日その変更箇所について説明をいたします。
0:01:56	まずコメント回答資料のナンバー1 コメント。
0:01:59	日本海溝の手法を用いたモデルとの比較につきまして、37ページをお願いします。
0:02:13	37ページは、
0:02:14	2ポツ、日本海溝の津波評価手法を踏まえた滑り量分布の特性化方法の妥当性についてのまとめ提示になりますが、今回上の箱書きに対応する図として、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:24	括弧書きの下に、検討波源モデルと、日本海溝モデルとの関係。
0:02:29	各モデルの設定に適用した、内閣府 2012 と土木学会 2016 の滑り量分布の特性化方法との関係の全体像を説明する図を追加しました。
0:02:40	次に 46 ページをお願いします。
0:02:51	46 ページは、各波源モデルの滑り量設定方法の詳細を示すページですので、
0:02:58	右下の断層パラメータの表から、滑り量設定の説明に直接関係のないパラメータ、具体的には破壊伝播速度とライズタイムを削除しました。
0:03:08	次の 47 ページから 50 ページにかけても、同様の修正を行っております。
0:03:15	続きまして、No.2 コメント水位下降側の詳細パラメータスタディの実施方法につきまして、57 ページをお願いします。
0:03:29	57 ページですが、水位下降側のパラメータスタディ因子の分析結果を示しております、右側、詳細パラスタの破壊伝播速度、破壊開始点の分析について、
0:03:40	ページ下にお示しお示しする通り、津波高等の最大値に関西大地に関する分、傾向を分析できるよう、
0:03:48	破壊伝播速度破壊開始点ごとの津波高等の数値を、各パラメータスタディ結果の平均値ではなく最大値での整理に変更しました。
0:03:58	あわせて上の破壊伝播速度、破壊開始点の考察についても適正化しましたが、ライズタイムの変化による変動幅と破壊伝播速度破壊開始点の変化による変動幅との大小関係自体に変わりはなく、同程度であることを確認しました。
0:04:14	次の 58 ページ 59 ページの水位上昇側の基準断層モデル、1-1 と 3-2 につきましても同様に、破壊伝播速度、破壊開始点の分析を、
0:04:26	平均値ではなく最大値で整理することに変更しており、
0:04:30	またライズタイムの変化による変動幅と破壊伝播速度破壊開始点の変化による変動幅との大小関係自体も変わりはないことを確認しました。
0:04:40	60 ページをお願いします。
0:04:46	60 ページは、水位下降側の詳細パラスタの結果です。
0:04:50	左下の基準断層モデル 2-3 について、注釈の通り、ライズタイム 90 秒のケースの水位低下時間が最大となっていたことを踏まえ、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:59	水位低下時間のピークを確認できるように検討するライズタイムのケースを拡大して、60秒のケースの破壊伝播速度破壊開始点のパラスタを追加で実施しました。
0:05:11	その結果選定されるケースに変更がないことを確認しました。
0:05:15	またこのことについて、ページが前後しますが56ページの方針にも記載をしております。
0:05:23	56ページの右側の、
0:05:26	今回の水位下降側のパラメータスタディの実施工法の青い四角につきまして、括弧書きですが、なお水位低下時間のピークが確認できるまで、必要に応じて検討するライズタイムのケースを拡大するとの方針を追記しております。
0:05:43	次に61ページをお願いします。
0:05:50	61ページは、前回ヒアリングでも少し議論のありました、水位上昇側の取水層の詳細パラメータスタディについて、
0:05:58	説明は変更していないものの、今回追加検討を補足として実施しました。
0:06:03	上の箱書きですが、1ポツ目は前回の説明と同様です。
0:06:08	水位上昇側の取水層に関する詳細パラスタについて、ライズタイムの影響と破壊伝播速度破壊開始点の影響は同程度ですが、ライズタイムが短いほど津波水位が大きくなる関係は、
0:06:20	破壊伝播速度、破壊開始点によらないことから、水位上昇側の取水層のパラスタの順位によって順序によって選定されるケースが変わることはなく、
0:06:30	敷地に最も影響の大きいケースを選定できていると評価しました。
0:06:34	ここでは、念のために、水位上昇側の取水層に関する詳細パラスタについても、ライズタイムのパラスタにおいて影響の大きい複数のケースについて、さらに破壊伝播速度、破壊開始点のパラスタを実施しました。
0:06:48	具体的には、下の図表の通り、基準断層モデル3-1から3-3について、影響が最も大きいライズタイム60秒のパラスタのみを実施していますが、
0:06:59	図の濃い赤で示すような影響の大きい複数のライズタイムについても、破壊伝播速度破壊開始点のパラスタを追加で行いました。
0:07:08	その結果、いずれの基準断層モデルにおいても選定されるケースは、ライズタイムが最も短い60秒のケースとなり、変更がないことから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:17	ライズタイムが短いほど津波水位が大きくなる関係は、破壊伝播速度破壊開始点によらず、水位上昇側の取水層のパラメータスタディの順序によって選定されるケースが変わらないことを再確認しました。
0:07:31	右下の二つ目のポツの通り、ここでは 34 号取水槽の結果のみを記載していますが、その他の取水槽についても同様に、選定されるケースに変更がないことを再確認しています。
0:07:44	なお全ケースの評価結果は、補足説明資料 6-11 章に掲載しています。
0:07:49	最後に 74 ページをお願いします。
0:07:58	74 ページでは、追加の解析に伴い、右下の全計算ケースを約 1700 ケースに更新をしております。
0:08:07	コメント回答資料の修正箇所は以上となります。
0:08:10	続きまして本体資料をお願いします。
0:08:18	本体資料には、今説明しましたコメント回答資料の修正事項を反映しております。
0:08:24	内容が重複しますので、詳細な説明は行いませんが、
0:08:28	100%126 ページをお願いします。
0:08:35	126 ページにはコメント回答資料と同様に、上の箱書きに対する図を追加しています。
0:08:42	次に 180 ページをお願いします。
0:08:48	180 ページには、水位下降側の基準断層モデル三野さんについて、ライズタイム 60 秒の破壊伝播速度、破壊開始点の詳細パラスタ結果を追記しました。
0:08:59	次に 105 ページをお願いします。
0:09:06	205 ページでは、破壊伝播速度破壊開始点の詳細パラスタの分析について、平均値ではなく最大値での整理に変更しました。
0:09:14	同様の修正を、210 ページまでにかけて行っております。
0:09:19	最後の 228 ページには、追加解析に伴い、前掲計算ケースの数値を更新しております。
0:09:28	本体資料につきましては以上となります。
0:09:31	最後に、補足説明資料をお願いします。
0:09:47	まず補足説明資料ですけれども、目次の 3 ページをお願いします。
0:09:55	先ほどコメント回答資料のところで説明した通り、取水槽の詳細パラスタに関する追加検討を実施しましたので、その結果の詳細として、今回、6-11 章、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:06	補足取水槽の詳細パラメータスタディに関する追加検討を追加しました。
0:10:11	689 ページをお願いします。
0:10:28	689 ページは、6 の 11 社の扉ページで、
0:10:32	次の 690 ページは、取水槽の詳細パラメータスタディに関する追加検討の概要になります。
0:10:39	箱書きは先ほどのコメント回答資料での説明と同じですので読み上げは割愛いたします。
0:10:45	691 ページからは、基準断層モデル 3-1 の詳細パラスタに関する追加検討結果を掲載しております。
0:10:54	697 ページをお願いします。
0:11:03	697 ページは今回追加で実施しました基準断層モデル 3-1 の詳細パラスタ結果の時刻歴は形ですが、
0:11:11	696 ページのライズタイム 60 秒ケースの時刻歴アケイと比較して、異なる傾向を有するようなケースはないことを確認しました。
0:11:20	698 ページ以降には、同様に基準断層モデル 3-2、3-3 の追加解析ケースの解析結果及び及び時刻歴派遣を示しております。
0:11:32	プレート間地震の津波評価に関する変更内容の説明は以上となります。
0:11:40	続きまして、中部電力の西村でございます。
0:11:43	歴史記録及び津波堆積物に関する調査について、変更点を中心にご説明いたします。
0:11:50	3 ページは、前回会合におけるコメント一覧表です。
0:11:56	今回コメントを適正化してございます。
0:11:59	前回会合でのやりとりを正しく反映いたしまして、コメントを、評価方針の見直しから、資料構成の見直しに適正化してございます。
0:12:08	これに伴い、コメント回答方針も、資料構成の見直しに適正化してございます。
0:12:14	具体的な修正内容については、コメントとコメント対応方針をどちらも記載してございます 5 ページで説明いたします。
0:12:23	5 ページをお願いいたします。
0:12:26	下から 2 番目の箱書きに、前回会合でのコメントを示してございます。
0:12:31	3 行目の一方以降が修正した内容になります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:36	読み上げますと、一方で、敷地の詳細調査結果をもとに、海起源イベント堆積物でなければ、津波堆積物としないとする評価方針の変更については、
0:12:45	事業者より基準適合上必ずしも必要ではなく、効果も限定的であるため、審査のより一層の重点化、効率化の観点から、
0:12:55	この評価方針の変更に関して、
0:12:57	第一線 20 回審査会合で説明した評価方針に戻し、
0:13:01	詳細調査に基づく評価は参考とする等の位置付けの変更を行うと。
0:13:06	の回答があったことから、それに伴って、資料がどのような構成になるのかを具体的に示すことと修正してございます。
0:13:14	コメント回答方針をその下に示しております。
0:13:19	1 ポツ目で、前回会合での議論を整理した上で、
0:13:22	2 ポツ目でそれに伴い、資料構成を再整理し、その変更点を示すというようにしてございます。
0:13:31	6 ページの箱書きに記載しているコメント回答方針も同様に修正しております。
0:13:38	ページ飛びまして、12 ページをお願いいたします。
0:13:45	参考として、イベント堆積物の堆積当時の地形を想定した津波の数値シミュレーション結果を追加してございます。
0:13:54	タニ地形のやや高い標高に津波堆積物があったとしても、
0:13:57	既往津波と同程度の津波で堰説明できると示しております。
0:14:03	13 ページには参考として、津波評価日結果との比較をお示ししています。
0:14:10	以上がコメント回答資料の修正内容になります。
0:14:15	続いて資料変わりまして、本編資料の 27 ページをお願いいたします。
0:14:28	前回ニシキさんよりご確認いただいた部分になりますが、右側の記号の凡例の表で、
0:14:35	供給元の海野記載について、括弧書きの中でございますが、下記に当たるものを具体的に記載してございます。
0:14:43	以上が本編資料の修正内容になります。
0:14:47	最後に補足説明資料になります。
0:14:49	151 ページをお願いいたします。
0:15:01	こちら、なお書きとして 2 ポツ目に、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:04	詳細な調査分析の結果、新たにイベント堆積物と認定する、すべきものが確認されず、また、主にコア観察によって評価したイベント堆積物には、
0:15:14	津波起因以外のものも含まれている可能性があるということを確認したという記載を追加してございます。
0:15:21	当社の説明は以上です。
0:15:29	はい。説明ありがとうございますそしたらちょっとプレート間の方も今回アップデートするところでも聞きたいことはちょっとあるんですけど、ひとまず前回の続きということで、
0:15:40	そちらの方の質問から先にしていきたいと思います。
0:16:00	はい。規制庁佐口ですけども、幾つかですね、細かい
0:16:05	ところも含めて、前回の会合でちょっと時間がなくて聞けなかった部分もあるので、
0:16:11	少し確認を幾つかさせていただきたいんですけど。
0:16:17	プレート間の、
0:16:19	プレート間地震の津波評価ですね、これのコメント回答のところで、
0:16:23	まず、10、
0:16:25	5 ページですね。
0:16:28	これはごめんなさいすごく細かいことかもしれないんですけど上の箱書きの二つ目の四角のところで、津波評価結果の傾向に大きな違いはなくてされてるんですけどこれ、
0:16:41	具体的にどんな傾向のことをおっしゃってますが今、
0:16:45	すごくシンプルってシンプルなんですけど、表評価結果の傾向に大きな違いはなくていうだけなので、何がどういふふうに向向があつてその大きな違いがあるのかないのかつていうのがちょっとよくわからないんで、そこはちょっと教えてください。
0:17:04	はい。中部電力の盛です。15 ページで言えば、
0:17:09	水位下降側が今回変更になっているということで、
0:17:13	最大水位の最大下降水位の分布にまず間違いがないということと、
0:17:21	こちらも海底面を打つていて、
0:17:34	米、
0:17:47	すいません中部電力のすいませんでした。
0:17:49	対下降側学校が変更になっていてその最大下降水位の分布と、あとは水位低下時間の時間について大きな変更がないということで記載してます

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	んで、実際にはそのは形なんかも見比べた上で、傾向がないことを確認して、
0:18:04	はおりますけれどもここの概要の部分では、図から判断できることとしてそのように考えております。以上です。
0:18:15	はい。規制庁佐口です。多分、その図から判断っていうのがやっぱりよくわからなくて、もし具体的にこれ記載できるんだったら、あればどうということに、どんな傾向に、
0:18:28	その違いがないのか。
0:18:29	ていうのを、きちんとですね、ここは書いていただいて、しかも、そのあとの文章との関係でこれ、
0:18:40	文章的にもちょっと何かおかしくないかなって、こう読んで、これ、これごめんなさい素朴な
0:18:47	疑問というのか、思ったので、ちょっとここはですねやっぱりどういう傾向に、
0:18:54	大きな違いはないのかっていうのははっきり書いていただきたいと思います。
0:19:12	規制庁鈴木ですけど、多分こって、当然水位上昇側の敷地前面と取水層って何も計算をしてないから、傾向もへったくれもなく結果も何も変わらないんですよ。
0:19:24	で多分今回アップデートしたのが水位下降側で、
0:19:29	前回の前回の会合のものもそうです今回のものもそうですしこういう傾向があってその傾向は大きく違いありませんっていうのを具体的に書けませんかっていうことなんですけど、多分それと後に、
0:19:42	あの後に、
0:19:43	もう同じようなことを述べてあるとは思いますが、
0:19:51	はい。中部電力の盛です。
0:19:54	承知しました追加硬岩について今回
0:19:58	秒数としては2秒延びたということで係数が少し、ライズタイムを、より
0:20:04	と、破壊伝播速度会社より網羅的にやったことで少しケースが変わったということで変更になっています。で、
0:20:11	そうですね。向こうが違いがないということがどういうことかということについてはもう少しきちんと、分析結果として書くようにいたします。まとめの最後に選ばれたところの間葉系なんかも見てもほぼ、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:24	ちょっと目で見ては違いがわからないぐらいの違いですので、
0:20:28	基本的には、
0:20:31	松波評価結果が大きく変わってないということ、言及したい記載ではあるんですけども今佐口さんからおっしゃられた通り、後の文書との繋がりも含めて、記載サンケイ再検討させていただければと思います。以上です。
0:20:48	はい。お願いしますともし今の話では形を見てその結果に違いがないということであるとするとこのページは形がないと。
0:20:56	ただその説明にならないので、
0:20:59	新沼だと多分、違いがパラパラメーターには参加者違いがありますということで一応結果が、
0:21:05	0.11分だけ違いますっていうところぐらいなので、
0:21:10	水位低下の分布で、言いたいんだったらそう。今の下に図はあるんですけど今は形を見るとっていうところの国は形がないので、
0:21:20	ちょっとこのページだけだとわかりにくいですね、そうするともしは形が重要なんであればなんですけど、別にあまりは形が関係ないんなら、
0:21:28	それは形の図を追加してくださいっていうつもりはもちろんないんですけど、
0:21:34	はい、中電力の方です。ここでは前のページからのその評価の変更概要とそれに伴って評価結果が前回今回でどう変わったかということについてちょっと言及してるページになりますので、
0:21:46	結果の前回今回ということが、わかればいいのかというふうに思っています。で、ちょっと、どういうところが違うか、同じかというところまでちょっとこの概要のページで言及するほどの内容ではないと思っていますので、
0:22:01	上の箱書きのところを少し修正させていただければと思っています。
0:22:07	あ、わかりましたここでは端的に、結果はこうなりましたっていうそこだけで、その分析みたいなものはそれぞれのページに、
0:22:14	ということですね。はい。
0:22:18	はい。規制庁佐口です。
0:22:21	私はもっとすごく純粋にですね、山森さんからご説明あったように、これって、最大上昇水位分布ですとか、下降分布っていうところに、
0:22:34	大きな違いはないよと言ってるだけなのかなと私は理解してたんですけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:41	その言葉足らずっていうんですかね、単純に傾向にOKな違いがなくって、言われると、いや、パラメータってそもそも違うよねって当然そういう話があって、
0:22:52	パラメータは違うんだけど、こういった水位分布っていうのほとんど変わらないんです。で、若干数字として変わったのは、そのついてか時間はちょっと変わったんですけど、
0:23:04	でもそれも、例えば場合になるとか、そんな大きな違いがあるわけじゃなくて、時間としては0.1分ぐらいしか変わりませんでしたって、多分そういうご説明がされたかったのかなと。
0:23:18	思ったんですけど、そういう理解でいいですかね。
0:23:23	はい。中部電力の森です。おっしゃる通りです。
0:23:26	ちょっとこのページで完結できるように、記載整えさせていただきたいと思います。
0:23:32	はい。規制庁佐渡ですが説明自体はわかりましたのでちょっとそこは表現ぶりだけだと思いますのでよろしくお願いします。続いて18ページなんですけど、多分こっからが結構メインというか私も、
0:23:44	いろいろというか、介護当日ちょっとコメントしたところもあるので、幾つか確認をさせていただきたいんですけど、まず18ページの
0:23:56	下の箱書きの、これ多分、
0:24:01	何て言うんすかね結論的にこう書かれているのかもしれないんですけども、
0:24:06	一番ちょっとよくわからなかった方が、
0:24:09	三つ目の四角、
0:24:12	になるんですかね。
0:24:13	の、その一方から始まる文章の真ん中ぐらい2行目ぐらいのその波源設定方法っていうところからなんですけど。
0:24:22	この南海トラフの検討波源モデルに直接取り込むことができないっていうのは、
0:24:28	どういうなんていうんすかね、理由というのか、どういう根拠でこれっておっしゃってるんですかっていうのと、
0:24:35	その
0:24:36	エビデンスみたいなので、この資料の中にあります。
0:24:45	はい。中部電力の盛です。ちょっと表現がやや強いかもしれませんがけれども意図としては、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:54	日本海溝側での黄色で書いてある海底地形構造とか特徴を考慮したような、要は波源域が違うので、その波源モデルを直接、
0:25:04	当然直接持ってくることはできないと、何らか南海トラフ側の設定だとか、南海トラフ側のこの検討を考慮した上で南海トラフの方に今持ってくるが必要になりますので、
0:25:17	これまで審査会合で議論させていただいたように、どういうふうに持ってくるかというところについては、
0:25:23	そのまま持ってくるんじゃなくて、何らか、南海トラフの特徴を考慮した上で取り組む必要があるという趣旨で書いているつもりです。
0:25:35	はい。規制庁佐口です。少なくとも今、今そういうふうには、
0:25:41	読めないっていうのもありますし、
0:25:44	その日本海溝の海底地形とか構造とか地震学的な特徴って、
0:25:50	今おっしゃいました
0:25:52	今、今お聞きしたすぐ上の文章ですよ。
0:25:55	これと、南海トラフってどう違うのかとか、そうそういうさっき一番最初の冒頭にエビデンスってあるのって、お聞きしましたけど、じゃあどう、どういう特徴が、
0:26:07	違って、だから、なんで直接取り込むことできないんですか、っていう、そこがやっぱりわからないんですよ。で、
0:26:18	当然それは場所が違えば、それはモデルも違うし、
0:26:22	ていうお話されてますけどそんなの同等前で、我々、以前から言ってるのは、当然ながら、これは2本会合で、
0:26:32	妥当性の確認をされた地方ですよ。
0:26:36	そういうものを南海トラフに適用して、
0:26:39	じゃあ、実際どうだっていう話をずっとしてきて、当然そのいろんなパラメーターやそういった、南海トラフ独特のとか特徴を踏まえた上で、
0:26:51	設定をする必要があるっていうことは、それは何となくこうわかるんですけど今この書かれてる文章だと、
0:26:59	何か、
0:27:00	いや、
0:27:01	場所が違って、何かその特徴が違うんで、
0:27:04	だから、直接こう、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:07	パラメータ設定をするようなことできませんみたいに見えちゃうんですよ。で、そうすると、ちょっとやっぱり、
0:27:14	先ほどの盛さんの説明とはちょっとこの文章ってやっぱり違うなと思いますんで、そこは、
0:27:20	適正化をするなりですね。
0:27:23	その内容がちゃんとわかるような形で、後にも、
0:27:28	ここだよってというのが多分あるのかな、ないのかなそういう資料っていうのは、ちゃんと入れて、
0:27:36	いただきたいんですけど。
0:27:43	はい。中部電力の盛です。承知しました。少し表現が強すぎたなというふうに今考えております。これまでの審査会合での議論の中で
0:27:54	もちろんつ日本海溝の津波評価の手法のモデルっていうのは、東北沖の津波は形とか海底地形等を踏まえて設定されたモデルなので、それを南海トラフのほうに取り込むということは、
0:28:06	我々も規制が求めてないというようなことを、審査会合で議論させて、させていただいた上で、これまで検討する比嘉比較という検討を進めてきているというところだというふうに認識しております。で、
0:28:20	ちょっとそのような趣旨で書いたつもりではあるんですけど、表現が、
0:28:26	強いかなというふうには思っておりますので、
0:28:28	ここのちょっと方針のところの記載について、
0:28:32	もう少し趣旨が伝わるように再検討させていただきたいと思います。
0:28:39	はい規制庁佐口です。ちょっと続けて同じページの、そのさらに下の矢印、黒い矢印があるところの文章なんですけど、その一行目の、
0:28:51	最後で、
0:28:54	滑り量分布、地殻変動量分布の特徴を比較することにより、
0:29:01	ってなあって、当然そのあとの文章も続くんですけど、
0:29:06	これずっと見てくと、結局なんか、
0:29:09	あんまりその比較してどうだってことって述べられてなかったような気がしてて、
0:29:15	ねえ。
0:29:16	ずっと見てくと、何かっていうと、結局、
0:29:21	この検討波源モデルっていうのが、
0:29:24	内閣府モデルとか、それから土木学会、この特性化の方法を用いているんで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:31	妥当なんですよということしか言ってないように、実は私、思えたんですけど、これって、今この矢印のことってももうちょっと具体的に、
0:29:41	どういうことをおっしゃってるのか教えてもらっていいですか。
0:29:48	はい。中部電力の盛です。検討方針が、四角二つで記載しております、まず一つ目の四角の方で、内閣府土木学会のモデルとどういう関係にあるのかということ整理させていただき、いただいていると。
0:30:03	二つ目の四角と矢印の方で日本海溝のモデルの1比較をして、どういう関係にあるのかということについて比較させていただいてます。今佐口さんが読み上げていただいたように、滑り量分布の特性化方法、
0:30:16	及びそれを用いて設定される滑り量分布近くで経分布の特徴がどういふふうになっているかというところを、今回、比較しているというところで、検討方針の中では、明示させていただきました。
0:30:31	で、検討概要が19ページにあるんですけども、ちょっと細かいいいので、具体的なページで説明させていただきますと先ほど、
0:30:43	申し上げた通り検討会の構造としては、1ポツ2ポツというところで、2ポツがご質問。
0:30:49	いただてる箇所になろうかと思えます。
0:30:52	2ポツが始まるのが、
0:30:57	32ページからになります。
0:31:10	32ページから、日本海溝の津波評価手法主を踏まえた滑り量分布の特性化方法の、との、
0:31:18	の妥当性ということで、県、左側の検討波源モデルと、右側の日本海溝のモデルについて
0:31:27	どういう観点から比較するかということで、赤矢印の下に、先ほどの方針として書かせていただいたものを記載しています。
0:31:35	SBO特性化方法、滑り量分布地殻変動量分布の特徴を特にし、津波の敷地津波、敷地への浜岡敷地への津波影響として支配的である東海地域において比較していると。
0:31:49	いうことで、
0:31:51	まず、33ページの方で、
0:31:56	1ポツでも、比較してました。
0:32:00	内閣府土木学会の滑り量分布の特性化方法左側と、日本海溝の津波評価手法モデル毒性下方右側について、どういう関係にあるのかと。
0:32:11	いうことをお示しさせていただきます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:14	で、滑り量分布の特性化方法のうち、特に超滑り域に関する部分については、両者で同じような特性化方法であるということを確認させていただいてます。
0:32:27	その上で、34 ページで、左側、検討波源モデル、右側日本海溝のモデルについて、どういう、
0:32:39	特性化方法を用いているのか。
0:32:43	35 ページです。具体的に設定された滑り量分布が、両者でどういう特徴になっているのか。
0:32:50	36 ページで地殻変動量分布の特徴がどうなっているのかと、いうことを比較させていただいてます。それぞれの考察を箱書きに書いているというような構造で資料Ⅱを作成しております。
0:33:06	はい規制庁佐口です。今ご説明したいことは何となく法なんていうんすかね。その順番的にはわかるんですけど。
0:33:17	結局、いや私がちょっと繰り返しになるんですけど、何でかっていうと、結局その 34 ページとか 30、
0:33:27	いや 31 ページから始まる。これって、
0:33:30	じゃあどういうふうに設定をされていますか。はいこうやって設定されています 33 ページもそうなんですけど、先ほど盛さんからご説明あったように、例えば滑り滑り量が、
0:33:41	大体その面積の何%とか、あと滑り量は、平均滑り量の何倍の設定ですということをしか言ってなくて、
0:33:51	そう結局それって何かっていうと、当然ながら、内閣府 2012 だったり、道具類学会 2012 がそうやって設定しているからというそういう、
0:34:01	踏襲したもの。
0:34:03	ですよねっていうことで、同じように設定されていますよねっていう。
0:34:07	そういう関係を示されているだけで、34 ページも同じような形で、
0:34:13	示されていると。
0:34:14	で、それは、
0:34:16	私会合でもちょっとお聞きした部分ですけど、結局この、
0:34:21	35 ページ、この関係、
0:34:24	いやおんなじ。
0:34:26	手法使って、
0:34:28	同じように、滑り量を平均滑り量の何倍とか、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:33	あとは面積の何%かってやってるんだけど、この 35 ページ、緑で囲ったところと、
0:34:41	それぞれ右と左と比べて、じゃあ何でこういった最大滑り量とか平均滑り量が変わってくるんですかっていうのが、やっぱりよくわかんなくて、
0:34:51	同じように、
0:34:54	土木学会、それから、
0:34:56	内閣府
0:34:57	モデルっていうものを、の設定の仕方を、特性化モデルですね、特性化モデルのおんなじやり方してますんで、まあいいですよっていうだけでこの、
0:35:08	差ですよ。
0:35:09	で、結局その 35 ページって前回までの資料だと、
0:35:16	例えば A とか D っていうモデルっていうのは、この 2 本外国の津波の評価モデルとかっていうものの、最大滑り量や平均滑りを、これを上回ってるんで、
0:35:27	妥当なんですみたいな説明があってそれで会合で、
0:35:31	この滑り量の大きさで比べてるんですかって、そういう、
0:35:36	の確認というか議論をさしていただいたと思ってて、
0:35:42	そうするとこういった滑り量で見ると、モデル C って明らかに他のモデルより小さいですよ。しかも、これって土木学会の方法を用いてるんでいいんですよって今回も、何かそういうように、
0:35:56	見えるような資料作りをされているんですけども、土木学会って実際に、
0:36:03	どうやって、サンプルかもしれないんですけど事例として、
0:36:08	やっているんですかっていうのを見ると、
0:36:12	47 ページですかね、47 ページのモデル等、これって、モデル C って、2.5 に使わないですよ。さらに言うと、
0:36:22	滑り量って見ると、例えば平均滑り量これは超滑り、
0:36:27	域の滑り量でいいのかな平均 29.8 メーター。
0:36:32	それから、最大滑り量って見ると、
0:36:36	これ右の、
0:36:39	松波断層駅全体でも、欧州でもいいんですけど 32.7 メーター。
0:36:45	っていうので、やっぱりモデル C と、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:48	比べちゃうと 35。
0:36:50	ページの、やっぱり全然こっちの土木学会モデルの方が、
0:36:57	大きいわけなんですよ。
0:37:02	じゃあ何でその大きい小さいとかっていう話をする、確かに今モデル椎野が小さいのに、これが妥当なんだっていえるんですかっていうのが、やっぱりよくわかんなくて、
0:37:14	多分それって、あくまでも 35 ページとかって、
0:37:18	本当はこの検討波源モデルCだったり、あと日本海溝の津波評価の手法モデル①ってというのは、
0:37:27	もともとが、
0:37:29	下限域全体。
0:37:31	もっと広域に見たときに、
0:37:33	設定されるようなモデルのはずだったんですけど、何かこの比較のところで、
0:37:39	ちょっとご説明ありましたけど、その東海域だけに着目した。
0:37:44	比較だけをされていると、なんか。
0:37:47	誤解を与えるというか、すごく違和感があって、そもそもの一番最初は、広域のためにこう設定したモデルの 2、
0:37:58	なのに何で考査最後の方になると、古藤海域のところで比較をしちゃってるのかなっていうのがよくわかんないんですけど。
0:38:06	もうちょっとそこ追って説明いただきます。
0:38:15	はい。中部電力の盛です。ちょっと何点かございましたので、順番、ご理解いただいているところもあるかもしれませんがちょっと順番にご説明させていただきたいと思います。
0:38:26	まず、土木学会モデルと検討波源モデルCとの
0:38:32	モデル設定の違いということについては、
0:38:35	A、
0:38:37	24 ページから、今回整理させていただいてまして、
0:38:50	左側の土木学会の波源せ、滑り量分布の設定方法と右側の検討波源モデルCのスピード設定方法ということで、整理しています。
0:39:00	基本的には、同じ方法で減ってしているものの、赤字の部分だけが異なっていると。
0:39:07	ということで、特に超滑り域の
0:39:10	位置について、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:13	あくまでも、左側の土木を例示として、お示しされているものを当社として、根拠を持って設定するというところで右側の検討波源モデルCでは、江崎さん先ほどおっしゃられたような、南海トラフ広域の
0:39:28	津波の再痕跡再現モデルを踏まえて、設定しているというところが、違いでございます。こちらは過去の地震の滑り域の位置を、
0:39:39	推定した上でここにまず置いたというところが、当社としてより精緻に設定しているところというふうに考えています。
0:39:46	もう1点は、上記設定による地震モーメントの変化分の調整ということで、基本的に同じやり方をするものの、土木学会そのままに従ってしまうと、
0:39:58	超滑り域の滑り量が小さくなるという場合には、背景領域のスピードのみで調整するというところでちょっと細かい調整になるんですけども、
0:40:08	地震モーメントのをどういうふうに、最後調整するかというところが違っているというものでございます。
0:40:16	と、
0:40:18	細かいところは、次のページからご説明させていただいています。
0:40:23	と25ページが、土木学会モデルの地震モーメント変化分の調整ということで、
0:40:30	単純に、一番上側の行列でついているような、超滑り行滑り域、背景領域ということで、滑り量を置いていくというのがまずあります。で、
0:40:44	単に置くだけだと、モーメントが全体として合わなくなるのでその調整を行う普通があるというのは、どの波源モデルの設定でも同じような処理があるかと思えますけれども、土木学会の方法では、
0:40:56	この全体について、合わせ込むように、
0:41:01	上の箱書きですね、地震モーメントの変化分を全領域の滑り量で調整していると。
0:41:07	ということで、サービスごめんなさいはい。ちょっと趣旨が伝わってなかったかもしれないんですけど、細かい設定方法は、正直言って、どうでも良くて、
0:41:21	そもそもだから、結局その、
0:41:24	前回の会合で、
0:41:26	何をもちて妥当と言ってたかっていうと、滑り量だったり地殻変動量。
0:41:33	後合いで、
0:41:35	妥当であると。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:37	言っていたわけですねAとかDのモデルは検討上げで、それに対してCだけは特に言及もされていないし、その滑り量だったり地殻変動量って他より小さいよねって。
0:41:49	このモデルCって妥当じゃないのっていう、そういうの中で、じゃあ何をもってこの紙Cというものの妥当性を示すんですかというところも含めてですね。
0:42:02	ちゃんとこれは説明をしてくださいという、コメントだったと思うんですけど、それに対して今回の説明がどういうふうになって、
0:42:13	何をもって、そのAもBもCもDもですね、含めて、この検討波源モデルというものを妥当性をどういう形で、
0:42:24	言っているんですかっていうのがちょっと見えなくてそれで、ちょっとコメントというか戻りますけど、今その資料を見てる限りは、いや、
0:42:34	いずれにしてもこれ、土木学会とかそれから、
0:42:38	内閣府 2012 のモデル。
0:42:41	ていうこの特性化モデルの、こいつを使ってるんで、
0:42:46	その滑り量とか地殻変動量って実はあんまり関係なくて、単にその
0:42:53	二つの手法を用いてるんで妥当ですっていうふうになら、今資料とは見えないんですけど、そういうことでいいのか、層相じゃなくて、
0:43:03	いやこうこうこういう理由で、当然、土木学会だったり、
0:43:09	内閣府 2012 の特性化モデルのと同じ手法も、
0:43:15	用いてやってるんだけどもさらにそこに加えて、こういう根拠を持ってちゃんと設定していて、
0:43:22	だから例えばその滑り量だって、その
0:43:25	大きいから妥当という言い方もありますし、よく御社とか使ったりしますが、滑り量若干小さいですけど同程度であって、でもそれよりも、こういう根拠だから 10
0:43:39	こういう根拠が重要であってだから妥当なんですっていういろいろこう、
0:43:43	説明の仕方はあるんですけど、いずれにしても、何をもってこれ妥当と説明されているのかが、この資料では見えないっていうことなんですけど、そこもちょっと考慮し、ご説明いただけます。
0:43:59	はい。中部電力の盛です。前回までは、A Dについて滑り量が大きいからというような趣旨でしか書いてなかったというところなんです。で、今回はそこを変えるというよりは、さらに追加という形で、18 ページ 19 ページ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:17	書かさしていただいたような、1 ポツ 2 ポツ、
0:44:20	の妥当性について記載をさしていただいています。まず、19 ページでいくと 1 ポツ目の内閣府土木学会を踏まえた波源設定方法の妥当性については、
0:44:34	今回追加として記載させていただいてまして、これこれまでの説明の再整理ですけれども、
0:44:42	南海トラフ及び国内外の地形を踏まえてた上で、内閣府及び土木学会のモデルを使っていくということについては、
0:44:53	以前津波の策定上必要だということで取り込んでこれまで検討させていただいてました。で、先ほど佐口さんがおっしゃられたような細かい土木学会と検討波源モデルCとの違いと、
0:45:04	というようなところについて、あまりきちんと説明したことがなかったこともあって、今回再整理をさせていただいているというところですよ、
0:45:13	細かい滑り量設定の間違いや、
0:45:18	そこを踏まえて妥当な方法かというところを整理させていただいているというのが、1 ポツ目でございます。で、これはこれで、これまで説明してきたことを、コンパイルしたのものとして、妥当性波源設定の妥当性としては、必要かなと思って追加させていただいたものです。
0:45:35	その上で、2 ポツということで日本海溝の S B の分布の特性化方法との比較ということで、
0:45:43	今回は、前回、滑り量分布地殻変動ループが、絶対値として、A D は大きいかなということで、整理させていただいたところを、
0:45:54	絶対値というよりは、その特徴がきちんと反映されているかと言う点で、今回整理をさせていただきました。デイサービスさんが先ほどおっしゃられたような、
0:46:07	滑り量として見たときにも、
0:46:11	日本海溝のご報告地震のような、超滑り域 30 メートル 40 メートルような滑り量というのがどれも入っているということは、同じだというふうに考えています。その上で、D はもっと大きい 4 倍域が入ってるので 40 メートルが入っていると。
0:46:26	というような、そういう特徴についても考慮できているということ、2 ポツの方では記載させていただくと。
0:46:34	いうことを今やっているつもりではあるんですけども、ちょっと読み取りづらい部分があるというご意見をいただいたのかなというふうに、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:44	思っております。
0:46:46	いかがでしょうか。
0:46:51	はい。規制庁佐口ですんで、ちなみにさらにお聞きしますけど、さっき先ほどちょっとお聞きしたモデルCと、
0:47:00	土木学会で示された、
0:47:04	示されているモデル設定方向、方法が若干違うということなんですけど、その
0:47:10	土木学会の
0:47:13	何ページで、
0:47:16	いいんでしたっけね、比べてその設定のところで、
0:47:22	これどっちが妥当なんですかねっていう話っていうのはどこに書かれてるんですかね。
0:47:27	単にその痕跡高を再現できるモデルとして設定をしましたって書かれてるだけで、土木学会のこのモデルって、じゃあどう、痕跡高の再現においては御社の
0:47:42	このモデルより悪く悪いんですかね、いいんですかね、同じぐらいなんですかねっていう、ちょっとそこもよくわからないんですけど実際はどうなんでしょう。
0:47:53	中部電力浜野でございます。27 ページ。
0:48:00	先ほど来、佐口さんからいろいろお話をいただいててちょっと、端的に言うと私たちの書き方が少し足りないところあるんで、表現は、
0:48:11	考えさせていただくんですが、
0:48:14	嵯峨さんがおっしゃる通りで動画海上段に書いてまして、2016 モデルで、
0:48:21	先ほどお話あった 32 メーターぐらいっていう滑りが、ちょうど真ん中辺りの浅部にあるんですけど、
0:48:29	いや、土木学会の東側モデルって当然、東の方の痕跡を再現してるもともとそういうモデルですよという位置付けがあります。一方で我々の検討波源モデルCは盛がご説明させていただいた通り、
0:48:44	南海トラフ全域を再現するように設定しまして、つまりそれをもってこの滑り金と二つ目は東の海域とニシノ海域の二つに、
0:48:58	分けて配分して、全体を表現するっていうところを、9.1 まで能楽会と同じやり方で広げていると。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:06	いうものになりますので、ちょっと見ていただくと、南海地域のこの滑り量が38メートルぐらい。
0:49:14	ということで、この再現モデルの、先ほど来出てるような滑り量という観点でいけば、市が負けてるっていうわけじゃなくて全体を表すのに、
0:49:25	当然より痕跡の大きい西側の方に滑り量が配分されているので、こうなっているということで表現として、先ほど佐口さんがお話あったように、東の方をクローズアップしちゃ、
0:49:39	見えなくなってる部分っていうのもあってモデルの妥当性っていう意味では、土木学会のモデルを踏まえて、
0:49:47	痕跡を再現するところから持ってきて意味では滑り量もそんなに遜色ないものがちゃんと設定されてるんですけど、
0:49:56	浜岡というところを睨んだ場合に、東の方が当然影響大きいんでそこをクローズアップしてるんでちょっとちゃんと、痕跡再現西側も、
0:50:07	三階領域まで見れば滑り量もそんなに負けてるわけじゃないってこと。
0:50:12	を記載させていただきたいなというふうに考えております。
0:50:19	はい。規制庁佐口です。重要なのは、やっぱり、
0:50:24	どうどういうもともとどういふこれがモデルであって、その妥当性をどう、
0:50:31	何をもって示すか。
0:50:33	という話ですので、
0:50:36	それが今示されてるような形で示していただいてもいいですし、また別の示し方もあると思うんですけど、今だとちょっと前回の会合も含めてですね、
0:50:48	何か何をもって妥当だって言われているのがよくわからなくてさらに、モリ参考説明いただきましたけどやっぱり文章的には、
0:51:00	何か、あくまでもやっぱり、
0:51:04	内閣府2012頭、土木学会2016の方法を用いてるんで妥当なんですよって。
0:51:10	それしか言っていないように見えるんですよ。実際もし本当にそうだったらそれでもいいんですけど、多分そうじゃないはずなんですよね今までこう。
0:51:20	いろいろご説明も受けて議論をしてきましたけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:24	だから、そこはですねしっかり変えていただいて、ちゃんとこのモデル A から D までのモデルが、ちゃんと妥当なものなんだよということをきちんと示していただきたいというのが、
0:51:36	趣旨ですので、やっぱりそこがないと、ずっとなんかこのままこう、
0:51:43	ずるずると長引くのももう、
0:51:47	どうかと思いますので、ここはきちりですね、最後の詰めの段階でもあるのでそこはしっかりとですね、書いていただきたいと思います。
0:52:01	はい。中部電力の盛です。ありがとうございます。ちょっと今回の資料は、
0:52:06	審査会合で少し議論になったところもあって、土木学会と C との差分みたいな形で少し整理させていただいた面がちょっと強かったので、まず、
0:52:15	そもそもですね今嵯峨さんおっしゃられた、内藤さんもこれまで江越、よくおっしゃられていた通り、我々として知見を調べた上で、内閣府土木学会の波源、
0:52:26	設定方法で設定していくことが妥当なんだというところで、こういう説明をさし波源モデル設定をしているという部分がありますので、そこも含めて書き込みさせていただきたいと思います。
0:52:38	今の 27 ページのところについても、滑り量細かく見れば、上の方が大きいということもありますけれども、痕跡再現のところから精緻に滑り域の位置を設定してまず基本モデルとしてはここでやるんだと。
0:52:53	いうことを設定しているという面で、土木学会だけに頼っているというよりは、その波源設定方法を踏まえて、超滑り域を滑り域については、
0:53:03	より妥当な位置に設定できているというふうに思っていますので、そういうところも含めて 1 ポツの
0:53:11	項については、記載を充実化させていただきたいと思います。
0:53:18	はい。規制庁佐口です。だから今、盛さんがご説明いただいた部分、それ、私もそこが重要だと思ってるんで多分、ただ、私の意見がどうか、正直言うと関係ないんですけども、
0:53:31	少なくともですね御社がこういうところが重要で、こういう観点でこれは妥当なんだというのをしっかり書いていただきたいのと、それから、
0:53:41	ごめんなさいくどいようですけど、何回もですね、
0:53:46	繰り返しになってしまうかもしれないんですけど、34 ページだったり、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:54	そのあともそうなんですけど、36 ページかな。
0:53:59	やっぱりその、
0:54:03	何かモデル A、B において考慮されている。
0:54:07	ていう文言がいっぱい出てきて、
0:54:10	そもそも
0:54:12	モデル D ってどういうものなんだ。
0:54:14	て、
0:54:15	37 ページのまとめのところに今回
0:54:18	前回のヒアリングから
0:54:21	というのか追加をしていただいた部分もあるんですけど、
0:54:25	何かこう、モデル D って、これ実は、
0:54:31	内閣府 2012 モデルでもあり、土木学会 2016 モデルでもあるみたいな両方あわせもって、
0:54:39	るからいいんですみたいな、そういうふうに見えちゃうんですけど。
0:54:45	実際に、このモデル D ってどうやって設定したかっていうと、あくまでも多分この
0:54:52	土木学会 2016 っていうものを適用したわけではなくって、
0:54:59	その土木学会 2016 でも加工示されているような、
0:55:05	要はその町を滑り域の深さですよ。その部分について、
0:55:11	これ検討波源モデル A から長谷派生したモデルなのかなと私は思ってるんですけど、たまたまって言ったら言い方よくないかもしれないですけどあくまでも一つの知見として、
0:55:22	土木学会でも設定そういうふうには設定をされていますよっていう。
0:55:27	そういうだけのものであって、この
0:55:30	長大坪利益の深さっていうのは当然ほかの知見も踏まえた上で設定をされているはずなんですけど、何か今、モデル D はこう、
0:55:40	2000 内閣府 2012 に加えて 2016 本を考慮されているみたいな書き方をされると、
0:55:48	何かちょっと違うかなと思っていて、
0:55:52	そうすると今度逆に逆のパターンですね。
0:55:56	モデル C で、何でモデル C っていうのは、
0:56:01	土木学会 2016。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:03	ていうものを設定されてるんですけどそれに何でじゃない確実に 2012 っていうのを組み合わせなくていいんですかっていう、そういう一時期その会合の中でも、そういう、
0:56:15	議論をさせていただきたい。高野いただいたところもあるんですけど、そういう話にも何か、また話が戻っちゃうような気もするんですけど。
0:56:24	これって御社って実際、
0:56:26	どう考え。
0:56:28	られてるんですかこのモデルDっていうのは、
0:56:31	内閣府と土木学会の両方あわせ持つモデルなのか、それとも先ほどもちょっと私、確認させていただいたんですけど、
0:56:41	あくまでも内閣府中に、
0:56:44	というのがもともとあるんだけれども、一つの知見として土木学会 2016 でも設定されているようなもの。
0:56:53	があるので、深さ方向については、
0:56:56	もうちょっとこう、モデルAと違うような形で設定したのかっていうそこをちょっともうちょっと教えてください。
0:57:11	はい。中部電力の盛です。
0:57:14	議論の経緯はよくご存知だと思いますので割愛しますけれども、当間AとCのモデルがあるということで、深さについての議論になって、の派生というか、
0:57:27	内閣府モデルに対して土木学会のモデルが長すべきは深くまで設定されているところを踏まえて設定したモデルということなので、
0:57:36	ちょっとどちら、どちらかということはないんですけども、多分ニュアンスとしては、佐口さんが言われた中では後者に近いのかなというふうには考えてます。で、35 ページ、2 の比較についても、
0:57:48	この衛藤内閣府
0:57:51	的に設定されているところと、土木学会的に設定されているところというのを明示させていただいたところ、以上の
0:58:00	意図はなくて、そこで色分けした上で、どういう特徴が右と左で反映されているかというところを、ちょっと見える化させていただくと、議論が、議論とか、理解が、
0:58:13	進むかなということで、スカイ化させていただいたものです。で、先ほど佐口さんおっしゃられたような、基本的には、どのモデルについて

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	も、同程度の滑り量 3 倍 4 倍の 30 メートル 40 メートルのビルが入っていて、
0:58:29	その中でも、
0:58:32	4 倍域が入っているようなものはエーエスピーが大きくなっているというようなことも、考察としては書けるのかなというふうに思っています。我々としては、日本海溝のモデルというよりは、国内外の知見を踏まえた上で、
0:58:47	内閣府、土木学会の手法に
0:58:51	そ、に基づいて、さらに知見を
0:58:57	痕跡再現モデルなんかを使いながら、妥当な検討波源モデル設定しているというふうに考えていますので、少しこの 2 ポツについても、内閣府とか、土木学会、
0:59:09	2、ちょっとチーム分けみたいになっているところが、
0:59:15	我々が特に言いたいところともちょっと違っているのかなというふうに感じましたので
0:59:22	ちょっとどのような整理方法がいいのか、
0:59:26	というところは、検討させていただきますけれども、
0:59:32	あまりチーム分けをしてというよりは、
0:59:36	先ほどちょっとありましたけれども、手法が違いますので大きい小さいというところはありますけれども、概ねどのモデルも、M9 クラスの東北地震というのは、再現するような滑り量分布、地殻変動量分布にはなっていて、
0:59:50	その中でも特徴があってという特徴の整理を
0:59:56	ちょっとちいマーケットは違った形でお示しさせていただく方が、いいのかなというふうに考えています。
1:00:07	はい規制庁佐口です。当然ながら、内閣府 2012 とか同学会 2016 っていう手法に基づくことは別に我々
1:00:17	何かそれがおかしいとか言ってるわけじゃなくて、音声は税、どういう手法もそう、そうかもしれないんですけど、どういう根拠に基づいて、
1:00:27	ちゃんと設定をされたモデルなのかというのと、だから、ちゃんとこれは妥当なモデルなんですよっていうのをやっぱり説明いただかない限りは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:38	何かやっぱり、説明だけを今聞いていると、何か土木学会等内閣に基づいて設定してやるんで、まあいいですよみたいな説明が結局なされていて、
1:00:50	数値的にじゃあどうなのってみると、いやいや、日本海溝のこの津波評価モデルの方が数値的には大きかったり、必ずしもその数値が大きいからいいとか悪いとかって話じゃないかもしれないんですけど、
1:01:06	わかりやすいですよ数値が大きければそれだけ補修保守的なモデルであって、
1:01:12	だから、そこをきちんと、
1:01:15	こういう観点でこういう設定をして、こういう根拠に基づいてやってるのでちゃんと妥当なんですよということをきちんと書いてくださいという趣旨ですので、そこは、よろしく願い。
1:01:27	しますんで、引き続きこれもやっぱりちょっと細かいことなんですけど、
1:01:33	22 ページ。
1:01:37	これって、波源設定を確認をしました、内閣府 2012 だったら 2012 年で、さらにそれをどういうふうに波源モデル A に適用するのかっていうのを、
1:01:50	示しているだけの話なんですけど、今日ご説明。
1:01:54	あったのかな例えば 5、46 ページ以降とかで、これ、
1:02:01	関係しないパラメータを削除ってされたと思うんですけど、今日のご説明では、この 22 ページで、
1:02:09	この
1:02:10	いわゆる * って過去※1 ですよね。
1:02:13	この 1 ってこれ、
1:02:14	んな、何、何をおっしゃりたいのかがよくわかんなくて、別に。
1:02:20	敷地への影響の観点からパラメータスタディも実施って実際には確かにそうやってるかもしれないんですけど、これ、検討波源モデル A を設定する上でこのパラメータスタディって、
1:02:31	何か関係するんですかって言うのと、このパラメータスタディが逆に言うとないと、この検討波源モデル。
1:02:39	ていう設定は、何かでできないのかそういうちょっと関係、このパラメータスタディ府も含めた、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:47	検討波源モデルってということなのか、ちょっとそこをもう1回ご説明いただきます。
1:02:56	はい。中部電力の盛ですけど、22ページでよろしかったでしょうか。
1:03:02	はい。20、
1:03:04	2ページ、もう少し言うと、この次の23ページも、何か波源モデルAのところの下の赤の字で書かれている最後の、
1:03:14	ところで、括弧してパラメータスタディMGCってあるんですけど、
1:03:17	これ、検討波源モデルAの設定。
1:03:20	のところと、
1:03:22	このパラメータスタディの関係、何か関係があるのかないのかっていうそこだけなんですけど。
1:03:38	はい。中部電力の盛です。
1:03:41	超滑り域の位置については、箱の中に書いてある通り、痕跡再現モデルを踏まえて設定しておりますので、あくまでも※1は、
1:03:51	※1のそのパラメータスタディについては注釈ということになります。で、パラメータスタディーによっては
1:03:59	超滑り域の位置とかする側に入る場合と入らない場合もあるので、とあわせて記載させていただいているというところです。
1:04:07	ちょっと、
1:04:10	駿河湾のお話を、箱の中に書けば解決する子ところもあると思いますので、記載の、ちょっと整理をさせていただければと思います。
1:04:23	はい。規制庁佐渡です。いや、ごめんなさいいや、私何が言いたかったかっていうと、これは
1:04:31	何が言われ、
1:04:33	聞きたいのかっていうと、内閣府2012との違いというだけの話。
1:04:40	ですよ。異なる部分っていう話だけであって、そうすると、またちょっとさっきの話ともかぶるんですけど、いや、設定方法は、
1:04:50	内閣府2012でやっています。けども、一部その内閣府12モデルとはちょっと違うところはあるんですよ。で、何が違うかっていうところを、今これ書いてると思うんですけど。
1:05:05	それって何か関係あるんですかね。てもし関係あるんだったら先ほどの話に戻りますけど、土木学会2016で設定を
1:05:15	してるんだけど、一部こういうところが違いますっていうのは、なんで後ろの方では書かれてないのか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:21	ていうところに繋がるんですけど。
1:05:23	その関係で、いやあくまでもこの波源検討波源モデルAっていうのは、
1:05:29	内閣府 2012 の設定方法っていうのも、適用はしてありますっていうだけの話なのか。
1:05:37	この後のパラメータスタディも実施することを前提に、こういうモデル、もしくはそのパラメータスタディの値も含めて、
1:05:48	この検討波源モデルAというのが設定されているのかっていう、そういうことをお聞きしたかっただけなんですけど。
1:06:03	はい。中部電力の盛です。パラメータスタディの前に、まず検討波源モデルAとして、痕跡再現モデルを踏まえて調整利益を設定してますので、パラメータスタディはあくまでもその方実施していますと。
1:06:16	いうことだけの注釈です。なので、
1:06:20	パラメータスタディも含めて、
1:06:23	妥当性を説明したいということではございませんので、記載を少し見直さしていただきたいと思います。
1:06:30	はい規制庁サービス生なので一応ここは重要なのは滑り域の位置っていうのは、ちょっと内閣府の最大クラスモデルとは違う部分あるんですけども、それはあくまでも痕跡再現モデルを踏まえて設定しているからですと、そういう趣旨で、
1:06:47	いいんですね。
1:06:52	はい。中部電力の森です。おっしゃる通りです。検討波源モデルAに関わるか、だけにかかわらず検討用のCDについても同じように、痕跡再現モデルに基づいて、
1:07:04	超滑り域を設定しているというところが、内閣府土木学会との違いになります。
1:07:12	はい。規制庁佐口です。なのでだから、そこですよ。ちょっとだからごめんなさい最初、すごい細かいことって、申し上げたのはそういうことで、
1:07:22	あんまり、
1:07:23	なんていうんすかね。設定自体に関係がある部分ならいいんですけど、関係ない、ないところをなんかさ向こう関係あるような形で書かれるとちょっとそれは違うかなと思うので、そこは、
1:07:35	適正化をするなりをしていただければと思います。
1:07:41	はい中部電力の盛です。承知しました。ありがとうございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:15	はい規制庁昨日です。で、ちょっと前回のヒアリングから今回のヒアリングで、ちょっと変わったところで、ちょっと1点、
1:08:27	気になったというかよくわからないところがあったので、59ページですかね。
1:08:34	これ58ページ59ページっていうのは前回のヒアリングでいやそもそもこれ、分析してるのは、例えば58ページだったら敷地前面の話で、59ページだったら、むしろその積地前面以外の、
1:08:48	話をしている、検討してるはずなんだけど、この上のその箱書きの何ていうんすかね下の、
1:08:56	この考察部分が、それに合っていないじゃないんですかっていう形で多分合わせていただいたと。
1:09:03	いうふうに認識はしてるんですけど、この59ページの、
1:09:07	ライズタイムが短くなると津波高が大きくなるっていうところなんですけど、
1:09:14	これちょっと何て言うんですかね、そんなに。
1:09:18	大きくなってるとですかねっていうすごく高速な疑問なんですけど58ページみたいに、明らかに何か大きくなってればわかるんですけど。
1:09:29	これ59ページって例えば、その右で書かれているような、
1:09:34	何か同程度とか。
1:09:36	何かおんなじぐらいじゃないかなと。
1:09:39	この今の検討をしているこの取水口、取水槽ですね、取水槽というものに着目してみると、
1:09:50	何か、その前とかそのあとも含めた、その書きぶりで、
1:09:55	これ明らかにこう大きくなるって見えますかって言う、すいません素朴な疑問なんですけど。
1:10:01	ちょっとごめんなさい説明っていうかいただけますか。
1:10:13	今、規制庁サグチですけども、
1:10:15	もうちょっと言うとその、
1:10:18	どれぐらい大きくなったら、大きくなるって言うて、添どれぐらい以下だと、同程度ぐらいんっていうそういう判断を、
1:10:29	どれぐらいでされているのかなっていう、だけなんですけど。
1:11:16	すいません。今ちょうど今2秒ぐらい前に、そちらの画面が映ったのでもしかするとこちらの質問が聞き取れなかったか、そちらがご回答いただいたのが届いてないかだと思うんですけど。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:28	質問は、サグチの質問で聞き取りました。
1:11:32	佐口さんもご質問が、ちょうど 59 ページで、ライズタイムってそんなに大きくない。
1:11:43	大きくなるってところの途中で消えちゃったんで、
1:11:51	お願いします。
1:11:56	規制庁佐口です。なんかあまり接続、よくないみたいなんですけど。いや、もうもうそれだけですごく素朴な疑問なんですけど。
1:12:05	あんまり大きくても、
1:12:07	何かちょっと大きくなっているかなぐらいには、見えなくもないんですけど、何か明らかに大きくなるって、
1:12:15	いえるほど大きくなってるのかなっていうので、いやなんかこれぐらい大きくなったらもう大きくなるんですって、それ以下だったら、ほぼ同等、同程度なんですとか、なんかそんな基準みたいなものがあるんですかっていうすごく素朴な疑問でお聞きしただけなんですけど。
1:12:36	知久電力の森です。ここが、
1:12:40	亀田スタディーで来大城
1:12:43	今は大分細かい、1 ページ
1:12:46	辺で 1 メートルという話をしてますけども大きいものを選んでいるという観点で作ったグラフになりますので、
1:12:53	交付のところにも、B型と同じように、Aの方は、というのは適当だということはないかなというふうに思います。
1:13:08	で、多分この今考察で書いているのが、絶対してというではなくて、変動幅として小さいものにそれに向かっては、
1:13:20	小さいながらも見えているので、60 秒の評価のパラメーターというような順序については、ということを守りするようなグラフとして掲載しています。
1:13:38	そうですね。
1:13:40	ちょ、
1:13:41	江藤上野。
1:13:49	例えばその 1 ぐらいでクローズアップするというようなことをした方がいいかなというふうに思っております。
1:14:01	多分、前のページの 58 ページと全く同じ文言を、
1:14:07	書いてますよね。
1:14:09	前の 58 ページは敷地前面の、この 4 メートル、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:13	差が出るものに対して、ライズタイムが短くなると津波高が大きくなって言ってて、
1:14:19	59 ページは、そこではなくて 0. 数メートル差が出るものについて全く同じ言い方をしているので、
1:14:27	何かそこで引っかかるのかなあとと思うんですけど、多分、
1:14:32	敷地前面のように大きな違いはありません。ただ、比較的こういう傾向は見てとれるってということだと思うんですけど、実際、これはただのその点をプロットしているだけで、
1:14:45	多分 61 ページとか、最後の仕上がりを見ると、敷地水位上昇側、
1:14:51	取水槽は結局最後ライズタイムの 60 が選ばれているので、
1:14:56	少なからずライズタイムが短いほど、比較的、大きくは大きな違いはないんですけど、どちらかというとき大きくなっていきますよっていう。
1:15:06	そこは早く見てとれるのかなと。結果と、最後選ばれる
1:15:11	間は下のパラメーターと、
1:15:13	一応ここに書いてあるものとしては、
1:15:16	間違っていないんですけど、多分敷地前面の大きな違いの書きっぷりと比べると、
1:15:22	そこまでいえるのかなっていうのは、
1:15:24	ちょっとそこですかストンと落ちないだけだと思うんですけど、結果は、多分、ライズタイムが短い方が、取水水槽の方もですね一番来材が短いのが多分差し火災を選ばれたはずなので、
1:15:40	はい、中部電力茂呂です。ちょっと知りいただきましてありがとうございます。
1:15:44	10 ページっすか。ちょっと部分があろうかと思imasるので、いただければと思います。
1:16:00	はい規制庁佐口です。まさにだから先ほど鈴木がいろいろコメントというのを確認しましたが、もう私もだからそういう印象で、何か
1:16:14	考察で書かれてる割にはすごく書き方が短すぎて先ほどの 58 ページと 59 ページみたいな、おんなじ文言使われている割には、
1:16:29	傾向としては何となくそうかなというのは当然我々もわかるんですけど、そういったやっぱり考察っていうのは、簡潔に書いていただくのはいいかもしれないんですけど、
1:16:42	そこはですねやっぱり全く同じで、文章でいいのかどうかって言うところはちょっとですね、記事を

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:50	ちょっと変えてみるとか、それこそ傾向としては、大きくなるとか、それも当然一つの手ですけど、
1:16:58	やっぱりその同じ文言ではなくてですね一応考察なのでそこはしっかりとですね、記載をしていただければと思います。
1:17:09	はい。資料二分モリです。承知しました。ありがとうございます。
1:17:22	すいませんちょうど今 58 とか 59 の話になったので、その続きで一応
1:17:29	ライズタイムのところについては先ほど今申し上げた通りで、
1:17:34	最終的な仕上がりとして、ちょっとその敷地前面の書きっぷりと同じなので、少し程度論がわかりにくくあったんですけどただ、仕上がりとしては最終的に、
1:17:46	水位上昇側の取水層ってライズタイム 60 側が選ばれるので、そこでの整合がとれた。
1:17:52	考察というか、結果の分析にはなってるかなと思うんですけど。
1:17:56	一応これは買い替えして破壊伝播速度もその意味で、最後の仕上がりとは矛盾が、
1:18:04	ないかというと、
1:18:06	59 ページの、
1:18:09	取水槽の上昇側だからこれは、
1:18:13	あんまり大きなこれとって、大きな傾向はありませんよってライズタイムの変化による変動と同程度なので、
1:18:21	あんまりその、
1:18:23	この破壊伝播速度だとかどの破壊開始点なんていうのは、これは特に、
1:18:29	傾向としてはありません。
1:18:32	ていうのがそこは最後野瀬結果とは整合してるんですよ。
1:18:44	はい。中部電力の盛です。前回のヒアリングを踏まえて整理することもありますので、結果にはなってございます。
1:18:58	ちょっとライズタイムと違うのは線形的に上がっていくというようなちょっと傾向が例えば破壊開始点なんかでもないようなところもあって、
1:19:10	またちょっと偶然的不確かさだということもあって、あまりここからどうだというような傾向がなかなか、これだけではちょっと分析できないということも
1:19:19	ありますので、考察としては、変動幅に関する記載だけをさせていただいているというところです。
1:19:26	はい。はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:28	これは取水槽なんで仕上がりで言うと 54 ページの
1:19:34	詳細パラスタ結果今回説明。
1:19:38	これの基準断層モデル 3 の 3 の備考欄ですね。
1:19:43	ライズタイムはさっき言ったようにわずかながらもライズタイムが
1:19:49	短い方が、
1:19:51	影響が出るということで、最終的に 60 秒になっているとただ破壊伝播速度は、
1:19:58	さてどうかというとあまり大きな、
1:20:01	傾向はないし、破壊開始点は結果として最後 P6 っていうだけでこれは、
1:20:06	あんまりあれですかね、考察のところで述べるほどでもないっていう。
1:20:10	ということですかね。
1:20:15	入りパソコンでは多分どうとも言いようがないっていうことだったと思うんですけど。
1:20:20	赤い伝播会会社なんか結果として、
1:20:23	かなり
1:20:24	そんな大きな違いはないのかもしれないんですけど、
1:20:27	特にこの P6 ってなってるのは、単に結果論、そうなってるだけです。特に、
1:20:33	何か、破壊開始点の中で、
1:20:36	1 から 6 までの中で何か傾向があるわけではなくて、
1:20:40	たまたま P6 ですと、ということですかねここは。
1:20:44	そこら辺何かあるのであれば、
1:20:46	破壊開始点のところの書きっぷりは、
1:20:49	僕ももしですね、P6 が影響があるんだということであれば、そうわかるような、
1:20:55	考察の方がよろしいでしょうし、別にそうではなくて、
1:20:59	ライズタイムのほどのライズタイムもそんなに大きな傾向ではないんですけど、それほどの傾向すらもないということであれば、特段、
1:21:09	どの傾向があるっていう方、特に傾向があるっていうような書きっぷりは、
1:21:13	書かないんでしょうし、
1:21:19	はい、中部電力の盛です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:22	ライズタイムについては、短いほど水位が高いというような理屈もあるということもありますので、は、実際に線形的に、多少ですけども線形的に増加しているということもあって、考察として記載させていただいてます。
1:21:37	赤井改修については例えば 59 ページだと、
1:21:43	ほんつとにややですか。うん。
1:21:47	いや、P6 が大きいんですけども、例えば 50、
1:21:52	ごめんなさい 59 ページですね、59 ページだと P E E K 6 が、
1:21:56	うん。
1:21:57	記録が大きいんですけども、
1:21:59	58 ページ。
1:22:01	あと、これもちょっとほとんどわからないんですけども、P4 が実際に大きくなっているというようなところまでは元との関係も、
1:22:11	ありますので、あんまりどこの地点がというよりは、その波の組み合わせで微妙に変わっているのかなというところもあって、ここだから大きいところから小さいということではないのかなということを考えております。
1:22:23	なので、変動幅に関する記載だけにとどめているというようなところですよ。
1:22:28	以上です。わかりました。わかりましたがライズタイムの方は、そうなる原因も科学的には、
1:22:36	やはりあり得るというか別に説明がつくけど、破壊開始点の方は、
1:22:42	本当に結果そうでしたっていう。
1:22:44	あ、ごめんなさい、馬場君も鹿又消えちゃったかな。
1:22:54	聞こ大丈夫か。
1:22:58	はい。
1:23:01	ということでらのライズタイムの方はなぜそうなるのかの説明が十分科学的につきます。破壊開始点の方は、
1:23:08	そもそも破壊開始点自体が、正しくずれていくのでは下をずらしていくと。
1:23:13	何でどこの破壊開始点が一番影響が出る。ここなりなぜこうなりますかっていう、結果そうってますという
1:23:20	結果 P6 になりましたが、なぜ、
1:23:24	必ず記録になるかっていうのはそこに大きな何か、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:27	根拠というか、説明がつくものではないのでそこは書き分けていると、 そういうことですかね。被水加工はもうその意味で
1:23:38	仕上がりとの矛盾はないかというと、
1:23:42	水位下降側の分析は 57 ページで、
1:23:48	へえ、これは草加ライズタイム自体が 300 から 150 に向けて、ある程度 増えますそれ以降変化がほとんどないだから、別にこれ仕上がりとし て、
1:23:59	150 前後のものが選ばれていれば、仕上がりとしてはそごはないし、
1:24:04	ただその破壊伝播速度破壊開始点も、
1:24:08	これも、
1:24:10	同程度なんで、
1:24:13	これもそうか。
1:24:15	あまり仕上がりに大きな
1:24:18	影響はないかな。
1:24:20	確かに、
1:24:21	検討波源モデル。
1:24:30	57 ページは新野さんか。
1:24:33	新野さんだから。
1:24:35	そうですね。
1:24:42	この 57 ページもなので最後その選ばれる仕上がりと、ここに書いてあ る考察と、これもそごはないですよ。一応、
1:24:50	もう 1 回最後見ては見ますけど、
1:24:53	さっきの水位の上昇側のところは、細部仕上がりとそごはなさそうだっ たので、
1:24:58	これは、今回最大値に置き換えたので、
1:25:02	話としてはストンと落ちてくるかなと思うんですけど。
1:25:08	はい。中部電力盛です。今鈴木さんおっしゃられた通りそのライズタイ ムの考察、あとは破壊伝播速度破壊開始の考察についても、今回あのグ ラフも差し替えたこともありますので、結果と
1:25:20	もちろんそごがないようになっております。
1:25:29	はい。
1:25:30	ちょっとこの辺、前回のヒアリングからもう少し見直したり、より正確 に書いていただいたんですけど、どちらかという最終的に組み合わせ の話をして最後影響があるものを選ぶときに、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:42	この点のところをつまずくと。
1:25:45	なぜ、どれが一番影響が大きいものを選ばれているのかっていうのは、説明がつかなくなると、そこでまた頓挫することになるので、ちょっとすみません早めにこの段階で、
1:25:57	後日細かいですけどちょっとすみません詰めさせていただいたという次第です。
1:26:01	私は前回、あれかな、ところで一番気になった部分は、
1:26:06	一応話としてわかりやすい資料になったかなと思ってますけど。
1:26:18	規制庁タニですけど、
1:26:21	ちょっとお願いというか、68 ページで、
1:26:26	このなんかピークが出てるところのタイミングあんまり変わりませんよっていう話なんですけど。
1:26:33	何。
1:26:34	まだやれる
1:26:37	なんですけど、
1:26:39	これって
1:26:41	この尺度で見ると何か、どれぐらいこう違いがあるのかがよくわかんなくて、具体的に何分何秒か P E E K とか、このずれ秒数が、
1:26:53	どれぐらい違うかとかって、何か示せないもんなんでそれともどっか見たらわかるんですか。
1:27:05	はい、中電力モリです。一旦引き伸ばした図を作ってみたんですけども、
1:27:11	あんまり思ったよりも、
1:27:15	今見ていただいている全体の結果と変わりがなくて、これ、
1:27:20	にしたというようなところですよ。で、
1:27:24	基本的にこの上で言っているのは津波の間葉系の全体的な形状とか、最大値が発生する方が異なるかどうかという観点なんですけども、
1:27:35	見ていただいた通り、最大上昇水位が出てる時刻もほぼほぼ変わっていませんので、
1:27:42	何かもう少し時刻がわかるようなものをお示しできればと思います。
1:27:51	はいタニです。うん。180 分っていう尺度で見ると、全然こうなんか変わりが無いように見えるんですけど、具体的にその違いが、
1:28:01	何か、何何分っていう程度の差があるのかそれとも何秒程度なのかとか、その辺の感覚はちょっと知った上で話をしたいなど。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:10	思いましたので、お願いします。
1:28:18	あとちょっと
1:28:19	層相ところあんまり本質的な話じゃないですけど 60 ページで、
1:28:23	これ私がわかってないだけかもしれないんですけど、なんで書く。
1:28:27	各断層モデルで、そのライズタイムの確認してる範囲がこう違うんですかね何かピークをの隣まで見れば、
1:28:38	見るようにしたっていう話は、何かその前にあるんですけども。
1:28:43	何でなんですかね
1:28:46	片や、90 から 180 を見てるものもあれば 60 から 210 まで、
1:28:52	確認してグラフにしてるようなものもあって、その違いちょっと教えてください。
1:29:00	はい、中電力モリです。こちらの 56 ページに、
1:29:05	事例がありますのでこちらで代表で説明させていただきます。
1:29:11	前回までは左側ということで、ライズタイムのパラメータ性の結果、一番大きいものについて、破壊伝播速度破壊開始のパラメータスタディに進むということを検討しておりました。で、
1:29:23	今回は、
1:29:26	この 150 秒の 12.6 というものだけではなくて、120 秒もほとんど同じだということと、同じだという観点では 90 秒だとか、180 秒もほぼほぼ、0.1 分の違いということで同じになりますので、
1:29:41	切り上げみたいな話もあると数秒の違いということもあって、この部分について、
1:29:48	上に凸を探しにまずは行ったというようなところで、その幅がですね、基準断層モデルごとに近い数字があるケースってのが異なってますので、それが先ほどのグラフに、
1:29:59	あらわれているというところですよ。で、
1:30:02	今回追加で 60 秒を、この
1:30:05	ところについては検討したというところは、60 秒の 12.2 分 12.3 分ということで、ちょっと小さくなっているんですけども、先ほどのグラフでも見ていただいた通り 90 秒が一番、
1:30:17	ほとんど変わらないんですが最大になったということで念のため、
1:30:20	大体 60 秒のケースについても、計算をして確認をしたというところが、
1:30:26	ガクッと落ちたということは確認させていただいております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:37	谷です。わかりました。
1:30:54	はい。規制庁佐口ですけども、ちょっとごめんなさいくどいようなんですけど、
1:31:01	やっぱりその 31 ページ目以降、
1:31:04	されていて、このモデルDっていうのが、やっぱり土木学会や内閣府と土木学会両方、
1:31:12	から、
1:31:15	両方の手法を用いて設定しているものですよみたいな説明を、例えば
1:31:21	このされるのであればですね、
1:31:25	あればなんですけど、そうすると、
1:31:28	ちょっともう一度、一番最初の、
1:31:31	フローの話ありますよね例えば 72 ページって、これ、検討フローで、
1:31:36	これも冒頭にも多分、これまでこう示ししていただいているんですけど、そうすると、
1:31:43	この
1:31:45	検討波源モデルDっていうのはあくまでも今、
1:31:49	検討。
1:31:50	波源モデルAから派生しているだけの、
1:31:54	フロー図になっているんですけど、
1:31:57	もし土木学会の
1:32:00	特性化されたものっていうのも、これ一緒に考えているんだよっていうんだったら、
1:32:06	モデルCからも、これ派生するようなモデルに、
1:32:10	なると思いますので、
1:32:13	ちょっとこのフローも、
1:32:15	もしそのモデルDっていうのは、
1:32:18	内閣府、土木学会両方のから設定して、モデルなんですっていう話であれば、このフローも、
1:32:27	多分それに今は合っていないと思いますので、そこもどう、どうされるかっていうのも含めて、
1:32:34	ちょっとくどいようなんですけれども、
1:32:37	ちゃんと
1:32:39	ご説明いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。
1:32:50	中部電力天野でございます。承知しましたちょっと確かに。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:55	今野。
1:32:56	72 ページと、途中の書き方があるんでただ、
1:33:01	当審査会後に早くは対比図っていただきたいという意味ともともと説明してる、72 っていうのが本来ですので少し、
1:33:12	冒頭の、
1:33:14	コメント回答のところ、
1:33:16	が、
1:33:16	多少明確に分け過ぎているところもあるんで、それぞれの知見に基づいて、
1:33:22	やってるといようなことが読めるように、
1:33:25	記載を検討したいと思います。
1:35:34	はい。では、他は特に、
1:35:37	今のところで質問はなさそうですね。はい。
1:35:42	そうすると、一番大きいところは波源モデルですねあその多分おっしゃりたい、いいことはあるのしょうけれども、多分そこをわかりやすくこの資料上にうまく
1:35:54	落とし込めているかという点があるのでそこは修正いただくとして、あとパラメータスタディのところこれは少し細かいところですけどもう少しわかりやすいようにでき
1:36:04	再工夫していただくぐらいかなと思いますけど例えば 50、
1:36:08	9 とかさっきの話はですね、
1:36:10	ただちょっと波源モデルのところは、
1:36:12	なかなか、
1:36:13	うまく説明し切れないような気がしますのでここは少し資料をちゃんと
1:36:19	作り、少し必要があれば、少し時間かけて作っていただく必要があるかなと思いますので、
1:36:26	その準備ができましたらちょっと今回はヒアリングとしては、何ていうか 1 回目の続きですね第 1 回目のして前回のヒアリングで比木れなかった部分になっているのでほぼそのヒアリングとしては、
1:36:39	1 回目と 1.5 回目になりますので、もう 1 回ヒアリングで聞かせてもらう形になるかなと思います。
1:36:46	津波堆積物の方は私は特に、
1:36:50	ないですけども、今後多分なさそうなので、これは津波堆積物の方は、もし細かいところで気になったことあれば次、プレート間の時に最後、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:00	聞きますけど、
1:37:02	日本資料の方は、
1:37:03	ご飯いただいたかと思ってますので、津波堆積物はこちらから、今日、質問はございません。
1:37:19	清町の名倉です。
1:37:22	天野さんの方から一言。
1:37:25	ちょっと漏れ聞こえてきたんですけど、
1:37:27	介護の早くかけたいんでみたいな、一言がちょ、聞こえたんですが、
1:37:34	今の状況で、私、
1:37:37	コメント三つありますけれども、コメント回答三つありますけど、少なくとも一つ目に関しては、コメントに対してどういう答えを事業者が施工してどう説明しているのかということが、
1:37:51	簡潔に、30秒から1分で説明できないんですね。
1:37:56	二つ目のコメントと三つ目のコメントに関しては、コメントを受けてどういうことをやってどうい結果になったかっていうのはこれはクリアです。
1:38:05	そういう意味でちょっと一つ目に関して、もう少し説明のですね、同時
1:38:11	9、それから今まで説明した内容との関係。
1:38:15	これ後付けでもいいんですけどちゃんとコンプリートに説明し切る状態になっていただきたいというのがちょっとあります。
1:38:23	それやんないともう1回結局会合になってしまうので、宿題が出るだけなので、これについてはしっかりちょっと回答をし作っていただいてそれで確認をしたいと思います。
1:38:36	私からは以上です。
1:38:39	はい、渋谷間野です。ありがとうございます。今の名倉さんのご説明よくわかりましたんで、しっかりちょっと、
1:38:47	ここのコメント回答1のところ、我々としてどういうふうに妥当だと考えてるかっていうのが、わかるように再度整理して、改めてヒアリングの方申し込みをしたいと思います。
1:39:05	はい。それでは今日のヒアリングはこれで終了したいと思いますので、
1:39:10	ほぼ、お疲れ様でした。
1:39:13	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。